

飛騨地域で行われている心臓 CT の現状（アンケート報告）

JA 岐阜厚生連 久美愛厚生病院 放射線科 西野直樹

【はじめに】

一昔前の心臓検査は血管撮影による診断のみしか行うことができず、手技上どうしても入院が必要で、患者へのリスクも伴っていた。しかし、CT 装置の検出器多列化の普及により、入院をすることなく安全で手軽な検査ができるようになった。そこで今回、心臓検査が行える 3 施設にプロトコル等のアンケートを依頼し、その回答をもとに飛騨地域で行われている心臓 CT の現状についてとりまとめたので報告する。

施設名：高山赤十字病院、岐阜県立下呂温泉病院、JA 岐阜厚生連久美愛厚生病院
装置名：TOSHIBA 社製 Aquilion64

【アンケート内容】

1. 2011 年 7 月～12 月（6 ヶ月）の件数
2. 単純 CT から石灰化スコアを行い、心臓 CT 施行要否の判断について
3. PCI 後の治療効果（follow up）のためのモダリティについて
4. CT 装置およびインジェクタの条件
5. 前投薬の有無
6. 画像解析について

【結果】

1. 件数においては週に 1～2 例施行の施設が多かった。
2. 石灰化スコアは行わず、検査対象であれば全て行っていた。
3. PCI 後の follow up は血管撮影もしくは CT と使い分けている施設が多かった。
4. 装置のプロトコルでは、管電圧 120kv、ヘリカルピッチは自動が多く、管電流は全ての施設で RealEC を使用。また、撮影トリガーはターゲットトラッキング法を利用してはいるが、閾値設定と目視で撮影開始をする手法に分かれていた。また、インジェクションについては高濃度造影剤を使用して生食の後押しを行うも、注入速度や量は異なった方法で行っていた。なお、mgI/s においては評価ができなかった。
5. 前投薬は血管拡張剤やβ遮断剤は使用。カルシウム拮抗剤使用は 1 施設のみであった。

【考察】

1. 心臓 CT の施行や PCI 後の follow up においては、施設によって求められているニーズが異なるために差がでていると思われる。
2. 石灰化に拘らず検査を行っていることについては、石灰化部分も大事ではあるが、他にも異常所見がないかなど、客観視した点も検査目的としているのではないかとと思われる。
3. 装置プロトコルは、被ばく軽減や施設毎の再現性ある画像を探索した結果と思われる。
4. インジェクションは、施設毎で検討した結果として最も良い方法を使用していると思われる。
5. 前投薬については、どの施設も良好な画像を得るためには必要不可欠な薬剤と考慮しているものと思われる。

【結語】

今回のアンケートにより、飛騨地域での心臓 CT 検査の方法や違いが理解できた。各施設の方法を参考にしたり取り入れたりして、今後の検査に活かしていただきたいと考える。